

いのちの言の葉2013

富山県教育委員会平成25年度いのちの教育総合支援事業

「山で考えた命」

上市町立宮川小学校5・6年
平成25年10月7日実施

【授業の概要】

- 1, 山岳警備隊員を目指した経緯
- 2, 遭難者救助を通して感じること

【いのちの先生】

小薬 正義先生

・上市警察署山岳警備隊

(児童の感想)

私は命の学習で、人はいつ死ぬかわからないし、限りある命なので、毎日大事にしないといけないなと思いました。山で亡くなった人は、苦しそうで悲しそうな顔をしていると聞いたので、とてもつらく感じました。人生はつらいこともあるけど、明るく楽しんで生きていきたいと思いました。これからもたくさん思い出をつくりたいと思います。

(保護者より)

命の学習で、死と隣り合わせの山岳警備隊の方々の実体験に基づく話は、死について、また、命の大切さについて考えるよい機会だったと思います。今、いじめなどで命を自ら絶つ子供が増えているといます。死を選ばなければならないようなつらい思いをして、悲しい最期だったことでしょうか。悲しい顔で亡くなる人が一人でも少なくなるよう、自分に関する周りの人達に対して優しく接する、絶対に人をいじめない、人に苦しい思いをさせない、困っている人がいたら手を差し伸べられる、そんな人になってほしいと思います。持ち前の笑顔で周りを明るく、そして自分自身も前向きに生きれば、きっとすばらしい未来が開けると思います。



(児童の感想)

私は、小薬さんの話を聞いて、「生きる」「死ぬ」ということは、私にとってもみんなにとって、ものすごく大切であるということが伝わりました。そして、これからは困っている人を助けてあげて、その人が無事であることを願っていたと思いました。

(保護者より)

命は、その人だけのものではなく、産んで育ててくれた両親、見守ってくれているまわりの方々のお考えがたくさんつまっているもので、とっても大切です。そして、さびしいことですが、いつか人は死んでしまいます。人生という時間は限られています。なので、与えられた命を大切に、今という時間を大切に生きていきましょう。そして、自分の夢に向かって、何ごともしあきらめず、自分を信じて挑戦しましょう。そして、同じようにまわりの方々にも感謝し、人に優しくなってください。生きていることに感謝！ですよ。